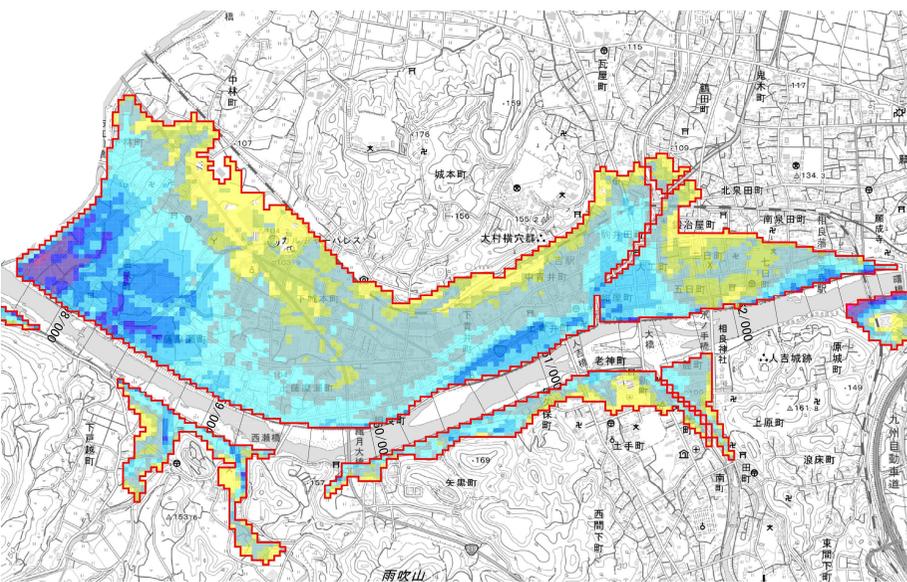


○河川整備基本方針の洪水規模(12時間雨量298mm、確率規模1/80)を超える、令和2年7月洪水規模(12時間雨量322mm)を外力として、現況と河川整備計画の河川整備の完了後における氾濫シミュレーション*を実施。
 ○この結果、河川整備計画の整備の完了に伴い、浸水は大幅に減少するものの、一部で氾濫が発生すると想定されることから、整備が進んだ段階においても、浸水リスクを踏まえたリスクコミュニケーションが重要。

※条件【降雨波形】河川整備基本方針で基準地点人吉の基本高水ピーク流量を決定しているS47.7洪水型の波形
 【堤防決壊の想定】計画高水位を超える箇所仮に堤防が決壊(設定した堤防決壊地点:57k800-62k800)した場合の氾濫シミュレーション結果。
 【確率規模】河川整備基本方針で対象降雨の降雨量として設定する際に用いた確率分布モデルであるグンベル分布による年超過確率(気候変動考慮後の確率規模)
 【浸水面積の集計】左岸:58k4~62k2(人吉市下戸越町~同麓町)、右岸:57k8~63k0(人吉市温泉町~同南願成寺町)の区間で発生する氾濫を対象に集計。

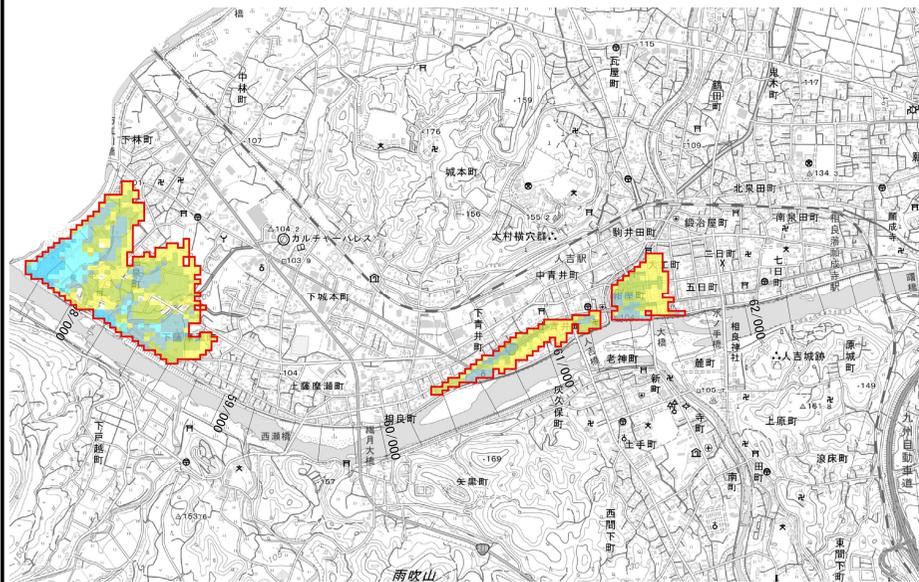
令和2年7月洪水規模に相当する12時間雨量322mmの条件を用いた氾濫シミュレーション結果

現況

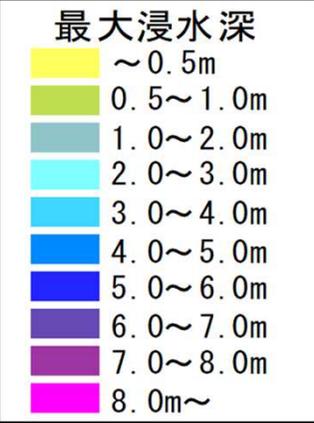


約350haが浸水する可能性有り

中長期③整備計画メニュー完了時点(概ね30年後)



約60haが浸水する可能性有り
 現況から約83%の浸水範囲減。(現況浸水範囲の約17%)



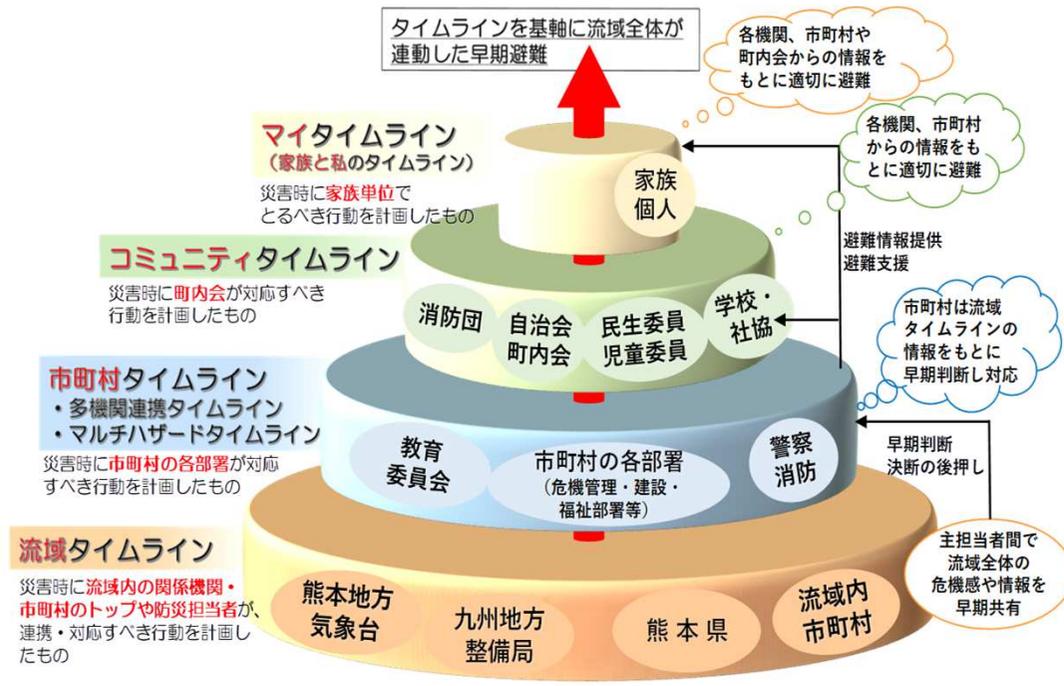
○水害リスクマップを活用し、自治体や関係機関とのリスクコミュニケーションを推進するとともに、球磨川水系水防災意識社会再構築会議の各取組によって、地域の防災・減災力の強化を図る。

③ 球磨川流域タイムラインの運用

- 球磨川流域では、自治体や関係機関の災害時の防災行動を時系列で整理した各種タイムラインを継続的に作成・運用。
- 現在は、流域全体の防災行動に着目した「流域タイムライン」を作成中。流域タイムラインを機軸に流域全体が連動した早期避難を目指している。
- 今後、流域タイムラインの運用や災害時の行動については、水害リスクマップの浸水情報も踏まえたうえで適切に対応。

④ 危機感共有と命を守る災害報道連携会議の取組

- 本会議では、令和2年7月豪雨により、甚大な被害に見舞われた球磨川流域を中心とする熊本県県南地域において、出水期の災害発生前からの危機感を高め、地域の住民の命を守ることを目的に、国・自治体や防災関係機関や報道機関が参加し、防災情報の共有を推進。
- 今後は、水害リスクマップの浸水情報を活用し、さらなる防災情報共有を進め、地域の防災・減災力の強化を図る。



各種タイムラインの役割や連動のイメージ



災害報道との連携イメージ

川辺川の流水型ダムへの環境への配慮

(第3回 流水型ダム環境保全対策検討委員会(R4.3.9))

○令和4年3月9日に「第3回流水型ダム環境保全対策検討委員会」を開催し、「川辺川の流水型ダムに関する環境配慮レポート(案)の修正」「今後の環境影響検討」について議論を行い、委員よりご意見を頂いた。
 ○第2回、第3回の委員会での議論を経て「川辺川の流水型ダムに関する環境配慮レポート」をとりまとめ、3月25日に公表を行っている。



第3回委員会開催状況(R4.3.9)



縦覧会場の例
(川辺川ダム砂防事務所)



「川辺川の流水型ダムに関する環境配慮レポート(令和4年3月)」の冊子

Press Release

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

令和4年3月25日
国土交通省九州地方整備局

「川辺川の流水型ダムに関する環境配慮レポート」の公表について

今年度より、調査・検討に本格的に着手している川辺川における流水型ダムについて、環境影響評価法に基づく計画段階環境配慮書に相当する「川辺川の流水型ダムに関する環境配慮レポート」を作成しましたので、公表します。

「命と環境を両立したダム」との熊本県知事からの要望なども踏まえ、「球磨川水系流域治水プロジェクト」に位置づけられた川辺川における流水型ダムについて、環境影響評価法に基づくものと同等の環境影響検討を実施することとしています。(令和3年5月21日記者発表：https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo05_hh_000129.html)

本レポートは、環境影響評価法の計画段階環境配慮書に相当するものであり、その作成にあたっては、関係法令に準拠し、計画段階配慮事項の設定等を行い、「流水型ダム環境保全対策検討委員会」での議論を経てとりまとめ、3月25日より公表を行います。(委員会 HP：<http://www.qsr.mlit.go.jp/kawabe/kankyou2/kankyou2.html>)

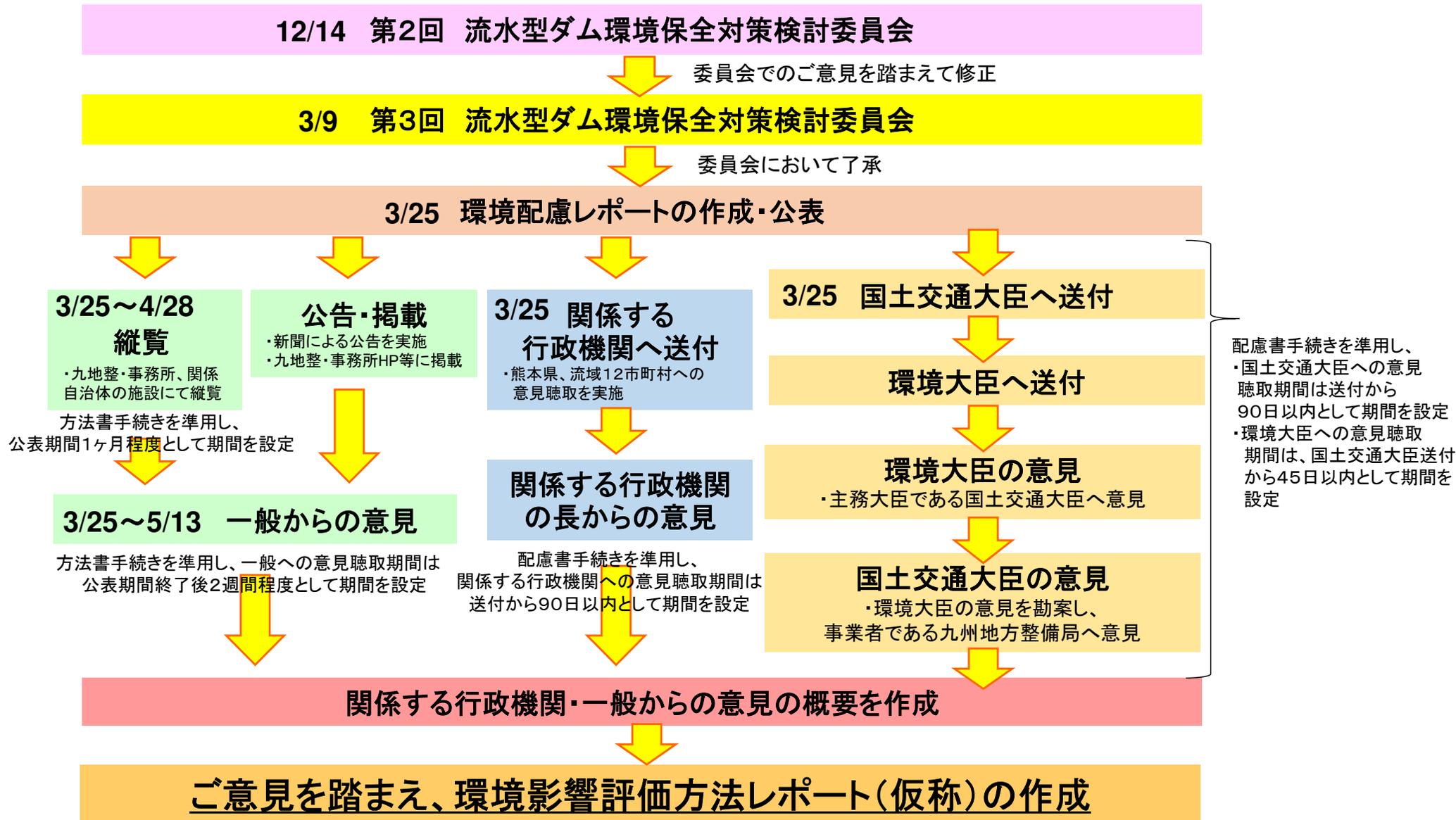
また、法令上、努力規定となっている本レポートに対する一般意見聴取を行います。意見聴取にあたっては、環境の保全の見地から意見のある方は、書面により意見を提出することができます。

○縦覧期間：令和4年3月25日(金)から令和4年4月28日(木)まで
 ○意見書提出期間：令和4年3月25日(金)から令和4年5月13日(金)まで
 ※ 詳細は、添付の資料1、資料2、資料3をご覧ください。

【問い合わせ先】
 国土交通省 九州地方整備局 河川部
 河川計画課長 山上 直人
 直通：092-476-3523

国土交通省 プレスリリース資料

- 「川辺川の流水型ダムに関する環境配慮レポート」公表後の手続きとして、環境影響評価法上の手続きに準じて、『国土交通大臣、環境大臣からの意見を求めること』、『努力規定となっている「関係する行政機関」「一般」より、環境の保全の見地からの意見を求めること』を実施。
- 現在、九州地方整備局や川辺川ダム砂防事務所、流域12市町村の施設などで縦覧を行うとともに、一般等からの意見聴取を実施している。



田んぼダム効果等の検証

(第3回人吉・球磨地域田んぼダム効果等検証委員会(R4.2.18))

1. 設置目的

- 田んぼダム実証実験事業は、流域治水プロジェクトの一環として令和3年度～令和4年度の2カ年で取り組むもの。
- 全国的には、新潟県や兵庫県など先進的な取り組みが行われているが、これまで本県では取り組んでおらず、今後、県下で普及を図るためには、田んぼのダム効果や農作物への影響などについての客観的評価が極めて重要である。
- そのため、第三者による田んぼダムの評価等を行うために、効果等検証委員会を設置。

2. 検証項目

1. 田んぼダムによる効果

○「田んぼダム実証実験事業」により得られた各種観測結果に基づき、水田が有する貯留効果、ピークカット効果、せき板のタイプ別の効果等を検証する。また、スマート田んぼダムによる水管理労力節減効果等の効果を検証する。

2. 田んぼダム実施により作物等に与える影響

○「田んぼダム実証実験事業」の実証ほ場における水稻の収量や品質等への影響及び実証ほ場周辺の畑作物(葉タバコ、ミシマサイコ等)への影響を検証する。

3. 田んぼダムの効果的な普及・啓発手法

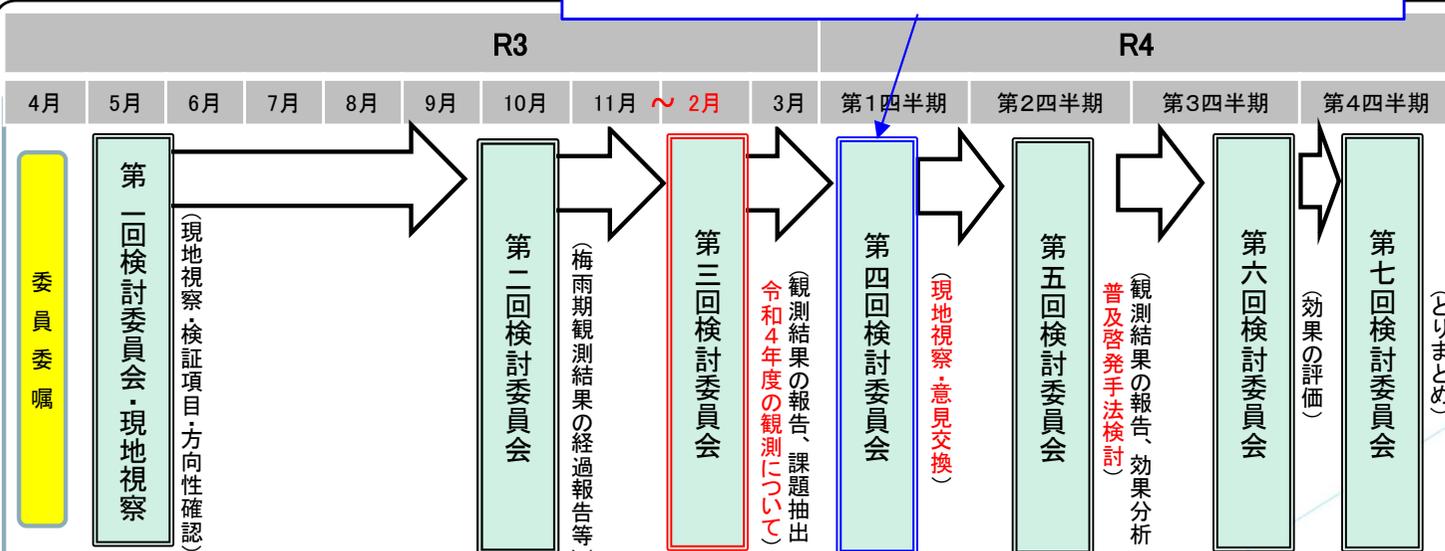
○将来的に県下全域に普及させるための効果的な普及・啓発手法について、提言をいただく。

4. 田んぼダムの取組みを推進するうえでの必要な事項

○「田んぼダム実証実験事業」を通し、田んぼダムを普及していく上での課題に対する対応方策等について、提言をいただく。

3. 委員会スケジュール

【案】開催時期：工事完了後（4～5月頃）
 内容：現地視察・農家との意見交換
 ※土木部との連携について



4. 委員

氏名	分野	職業及び経歴
渡邊 紹裕	学識経験者 (かんがい排水学)	国立大学法人熊本大学特任教授 国立大学法人京都大学名誉教授
濱 武英	学識経験者 (かんがい排水学)	国立大学法人京都大学農学研究科准教授
森田 敏	農業関係者 (国: 研究機関)	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センター所長
岡村 文明	施設管理者 (土地改良区)	百太郎溝土地改良区理事長
久保田 修	土地改良関係者 (行政・利水)	熊本県土地改良事業団体連合会 常務理事
太路 秀紀	報道関係者	株式会社熊本日日新聞社編集局 政経部編集委員

緑の流域治水アドバイザー

島谷 幸宏 特別教授
 (熊本県立大学 緑の流域治水研究室)

令和2年7月豪雨復旧・復興本部会議(第9回)(R4.3.24)

○熊本県は、令和2年7月豪雨災害による被災者の救済及び被災地の復旧・復興のための施策を、県庁の各部局が一体となって、迅速かつ強力で推進していくため、令和2年7月豪雨復旧・復興本部を設置。令和4年3月24日に第9回会議を開催。

第1回	令和2年 8月21日
第2回	令和2年 9月 4日
第3回	令和2年10月28日
第4回	令和2年11月24日
第5回	令和2年12月15日
第6回	令和3年 3月 2日
第7回	令和3年 3月30日
第8回	令和3年 7月 2日
第9回	令和4年 3月24日

開催状況



第9回会議開催状況 (R4. 3. 24)

“緑の流域治水”の推進と復旧・復興に向けた重点10項目

項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度末到達率(%)
1 堆積土砂の除去等 河川の緊急対策	堆積土砂の除去完了 河川の緊急対策	堆積土砂の除去完了 河川の緊急対策	堆積土砂の除去完了 河川の緊急対策	堆積土砂の除去完了 河川の緊急対策	100%
2 治山・砂防による 山の再生・強化	治山・砂防による山の再生・強化	治山・砂防による山の再生・強化	治山・砂防による山の再生・強化	治山・砂防による山の再生・強化	100%
3 “いのち”を守る 防災・減災力の強化	“いのち”を守る防災・減災力の強化	“いのち”を守る防災・減災力の強化	“いのち”を守る防災・減災力の強化	“いのち”を守る防災・減災力の強化	100%
4 本格的な 住まいの再建	本格的な住まいの再建	本格的な住まいの再建	本格的な住まいの再建	本格的な住まいの再建	100%
5 被災地の まちづくりと集落再生	被災地のまちづくりと集落再生	被災地のまちづくりと集落再生	被災地のまちづくりと集落再生	被災地のまちづくりと集落再生	100%

“いのち”を守る防災・減災力の強化②

＜令和3年度の成果と令和4年度の取組み＞

- 戸別受信機等の設置**
 - 出水期までに全世帯設置完了予定(～R4.5)。※八代市は一斉に情報配信するシステムを運用
- 想定最大規模(L2)に対応したハザードマップの作成(国管理及び県管理水位周知河川)**
 - 出水期までに冊子配布及びWEBによる周知完了予定(～R4.5)。※その他河川のL2対応ハザードマップを随時更新
- マイタイムラインの普及**
 - マイタイムラインシートを手軽に作成できる専用WEBサイトを開設(R3.9)。
 - 専用WEBサイトでの公開や市町村における出前講座、学校での防災授業で活用する作成支援動画を制作(R4年度)。
 - 学校等と連携し、子どもから家庭への浸透を図るために、マイタイムラインを活用した防災授業を支援(R3年度(対徳工業高、球磨中)、R4年度～)。
- 避難行動要支援者個別避難計画**
 - モデル地区ワークショップの実施などにより、個別避難計画の実効性の更なる向上を推進(R4年度)。
- 住民参加型避難訓練の実施**
 - “マイタイムライン”を活用した住民参加型訓練を実施(R3年度～)。
 - 県と市町村が連携した個別避難計画に基づく訓練を実施(R3年度～)。

治山・砂防による山の再生・強化(治山)

～農業・森林・林業関係者が連携した土砂流出対策「熊本モデル」を推進～

・豪雨による影響で水路が越水し宅地等に浸水被害が発生した幸野溝地区等の上流域において、農業・森林・林業関係者が連携し、緑の流域治水に資する土砂流出抑制対策「熊本モデル」を整理し公表。
 ・治山分野では、令和4年度より5か年計画で新たに「流域保全総合治山事業」に取り組み、国有林と連携しながら上流から下流まで一体となった治山対策を実施。

国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興

＜令和3年度までの取組みと成果＞

- 集落アクセス**
 - 令和3年7月末までに11の集落へのアクセス道路の応急復旧工事完了
- 国道219号および対岸道路(国の直轄代行)**
 - 応急復旧工事中
 - 国道219号令和3年7月末から大野大橋から人吉方面の一般車両通行可能
- 橋梁(国の直轄代行)**
 - 流失した10橋のうち、鉄筋橋など4橋の仮橋が令和3年5月末までに完成
 - 令和3年12月に、損傷橋を除く9橋の橋梁の復旧位置及び橋梁形式が決定

＜令和4年度の取組み＞

- 集落アクセス**
 - 本復旧工事の推進
- 国道219号および対岸道路(国の直轄代行)**
 - 国、県、関係自治体による連携
 - 本復旧工事の推進
- 橋梁(国の直轄代行)**
 - 西瀬橋：本復旧工事着手、工事推進
 - その他9橋：国、県、関係自治体による連携、早期復旧に向けた取り組み推進

第9回会議資料(抜粋)